

カレッジ通信

編集・発行

東京建築カレッジ

授業見学
大歓迎!

TEL 03
(5950)
1771

「新規入職者を増やすためにどうしたらよいか」語り合った 全建総連 職業訓練生等交流集会(6/13・14 広島)



テーマについて意見を出し合い、
班ごとに発表した。

6月13日から2日間、広島県廿日市市で開催された「全建総連 第52回全国職業訓練生及び講師・実務担当者交流集会」で全国13校から集まった職業訓練生35人(主に建築大工職)が「新規入職者を増やすためにどうしたらよいか」話し合いました。

過酷な実態 の直視から

会場に集まった職業訓練生は、低賃金、長時間労働、少ない休日、ハラメントの横行などの過酷な実態を出しあう一方、「インターネットを駆使して建築の仕事の魅力を広く伝えたい」「女性の入職者を増やす取り組みを強めながら、誰もが大切にされる職場環境をつくっていききたい」など前向きな意見が多数出されました。Ⅱ第2面に詳報

女性2人に 最優秀賞

各校代表によるミニ弁論大会では横浜建築高等職業訓練校の本村陽香さ

いのちを守るために、大震災の前に 危険性診断と適切な対策を 地域密着の工務店、建築職人 だから できることがある

11月16日(土) 第25回 公開講座

今年の講師は **山辺 豊彦さん** やまべ



東京建築カレッジ 第25回公開講座のテーマと基調講演の講師が決まりました。正月の能登半島地震の衝撃を受けて、「いのちを守るために、大震災の前に危険性診断と適切な対策を」をテーマに掲げ、自分たち自身に「地域密着の工務店、建築職人だからできることがある」と問いかけます。講師は「木構造」研究&実践のトップランナー 山辺豊彦さん=写真。

開催日時は11月16日(土)午後1時から。会場は「けんせつプラザ東京」。参加無料(事前参加登録制)。

動画教材作り の報告も

また、会期中おこなわれた職訓校の講師や実務担当者の研修会では、職業能力開発総合大学の塚崎英世教授が「建築大工の技能を科学する」と題し講演。熟練者の経験や勘、コツの科学的分析を基にした動画教材づくりを紹介しました。塚崎教授は「技術・技能の習

得に行き詰まりを感じさせない取り組みは離職防止に役立つ」と強調しました。

この集会には全国建設労働組合総連合(全建総連)傘下の訓練校16校(うち訓練生参加は13校)のほか、1県連、2単組が参加。講師や実務担当者を合わせた参加者は約100人でした。

図面の大切さ、正確で美しいものづくりを学ぶ

授業体験型オープンキャンパス

6月16日(日)、東京建築カレッジ江東実習場で「第30期生募集 第1回・授業も体験できるオープンキャンパス」を開きました。事前参加登録した4人(女性3人・男性1人)が参加しました。

午前中の授業は、本校の実習棟を題材にした建築パースへ



卓上平行定規の使い方を教わり、立体物を平面に表現する一点透視図法を学習しました。

の挑戦。初めて使う卓上平行定規を戸惑いながら動かして、一点透視図法の作図を行いました。難度が高い課題であり時間内には完成しませんでした。立体物を平面に表現する作業の貴重な体験になりました。

午後の授業は、1階の実習場で、基本

的な仕口の加工体験です。材料のどこをどのように切るのか、寸法の入った図面を見ながら墨付け(鉛筆)という作業から始めます。その後は、先生方が事前に砥いでおいてくれた盤(のみ)、玄能(げんのう)、鋸(のこぎり)を使って、自分が付けた墨を頼りに加工します。作業前には鑿など刃物を使った作業の危険性と危険を回避する正しい作業姿勢を先生の実演を交えて学びました。



でした。

「授業も体験できるオープンキャンパス」の次回は8月4日(日)、江東実習場で午前9時45分受付、午前10時スタート。公式ホームページで参加登録を受付中です。実技実習を伴うため定員は10人です。

作業手順を集中して聞いたあとに、墨付け、刻みスタート。先生の手助けを受けて時間内に全員が課題を完成させました。

次回は8月4日(日) 参加受付中

「全建総連 全国職業訓練生等交流集会」(6月13日~14日)

「新規入職者を増やすためにどうしたらよいか」班別交流で出された声

☆1班：見て覚える時代は終わった。「教える時代だ」「働く環境が大切」

親方は一回で覚えてほしい、見て覚えてほしいと言うが、弟子は聞きたいことを聞けない、休みたい時に休めなくて困っている。

☆2班：自分たちが見られている意識の向上。ダメなものはダメ！良いものは良い！と発信する。不満も魅力も社会に知ってもらう。

不満はいっぱい。パワハラ、モラハラ、いじめ、休日少ない、コンビニバイトより安い給料。一方で魅力もある。新規入職者を増やすためには問題点を改善しつつ、SNSやワークショップで仕事の魅力を知らせることが大事。

☆3班：一般の人に仕事内容をよく知ってもらう。

仕事や職人の実態が知られていない。・拘束時間が長すぎる上に、休日が少ない。ここは変えないと・・・

☆4班：イメージアップと職場

環境の改善

イメージアップ⇒アニメ化、ドラマ化できないか。職場環境の改善⇒教育のマニュアル化、合わない指導役は変更できるように。

☆5班：女子を増やす！！

男性しか働けない印象があるのでは。職業体験などで女性が多く働いていることをアピール。トイレをきれいにするなど、女性から嫌われないようにすることも大切。女子が増えると男性が元気になる。

大工という生き方を選んだ私

全建総連 第52回全国職業訓練生及び講師・実務担当者交流集会
ミニ弁論大会で最優秀賞を受賞
本校2年生(第28期生) 小堀 晴野さん



私は今、プライベートと仕事の両方で介護をしています。我が家では、93歳になる祖母が転んでしまったらすぐにわかるように、至る所にセンサーをつけています。仕事の現場では逆に、物音がしなくなったら要注意。80歳近い親方がそのあたりで倒れているかもしれないからです。

私は人の住む空間を作るということが私の夢だったから建築の世界に入りました。女性の私が入ることは難しいだろうと、心のどこかで臆

していた時もありました。実際、性別で差別されたり、軽んじられたりして悔しい思いをすることもあります。しかし、木という自然のものから、人々が人生の多くの時間を過ごす場所を自分の手で作れるようになってくると、言い表し難い幸福感と、大きな生きがいを感じることはありません。今日、広島に降り立った時も、焼け野原だった町を戦後80年で見事に蘇らせていて、やはり建築の力はすごいなあと感じました。

ただ、実際に現場で働いてみて衝撃を受けたのは、自身が憧れていた大工の実態が、理想と大きくかけ離れていたことです。

働く現場での安全・安心・快適という言葉は無意味に近く、ハラズメントも精神的なもの以上に、直接的に肉体的なものも、多くの仲間たちの経験するところです。

私たちの人生は、なんのためにあるのでしょうか。建築業界はその実態がわかりやすく見えるところですが、労働者の人権は軽んじられ、休

みもなく、賃金は相対的に安くなる一方です。仕事だけで生きてきた人間は、他人との繋がりが弱く、引退したあとの過ごし方が怖くて危険な現場に居続けます。高齢者でも現場に駆り出したい建築業界。一方で働く側も、例えば私の親方などは、現場とパチンコの往復で生きてきたので、「仕事を辞めたらすることがない、人と会わなくなってしまう理由で現場に出続けます。さらに、閉鎖的な社会ではパワハラも横行しやすく、悪い意味での同調圧力も強いので、変革を要求する少数派の声に攻撃的になりがちです。建築職人に



今、私の置かれて

未来に希望をもち、自分の能力を高める

ここに集う皆さんと、一緒に職業訓練に励みたいと思います。

いる状況は、個人的にはとても危機的な状況だと感じています。このまま、建築の業界で働き続けられるのか、先の見えない恐怖を覚えたりもしています。しかし、カレッジの授業で耳にしたレジリエンスという言葉が希望をつないでくれるかもしれないです。これは、心理学用語で「危機からの回復力や復元力」を意味するそうです。そして、危機からの回復のためには、未来に希望をもつこと、そのためには自分の能力を

高めることが有効だということですが、また、それらを楽しむ、楽しむ、ということもとても重要です。私は今の個人的な、そして社会的な生活の危機から抜け出すためにも、技能や技術の習得に努め、それによって将来に大きな目標を立てられるようになりたいと願っています。

私は、将来指導する側になれた時には、棟梁として、個人的にそして社会的にも多くの問題を解決しながら、ものを作る人々の立場に立った職場作りを目指したいと思っています。

もう一人の最優秀賞、横浜建築高等職業訓練校 本村陽香さん(2年生)と壇上で訴えた

1年生の授業から

「カレッジ・フレーム」には 建築のエッセンス(本質) が詰まっている。



4月の「集中授業」から始まった道具づくり、図面理解、墨付け、基本的な継手・仕口の加工の総復習課題が「カレッジ・フレーム」です。これまでに習った継手、仕口をフレーム状に接合する構造物ですが、部位それぞれ加工の精度が問われます。すべて

で図面の寸法通りに加工できていなければ、全体が組み上がりません。正確な墨付けで、鑿(のみ)の刃の仕上がりが良くないと加工の精度は下がり、最終的には施工不良になってしまうのです。

まさに、建築のエッセンス(本質)が学べる授業と言えるでしょう。授業のまとめの先生からの講評を真剣に聞く研修生の姿が印象的でした。

上写真：精度を高めるため金輪継手を調整中。
右写真：カレッジ・フレームの完成で互いの成長を確認する研修生たち(6月22日、江東実習場)



材料実験では科学レポートの基
本も学ぶ

池袋校舎で始まった材料実験の授業では、鉄筋や鉄筋コンクリート、木材の強度を確認します。コンクリートは調査設計から学び(「右写真」、自分たちで作った供試体を圧縮したり、引張ったりして得られた結果(数値)を記録し、初歩的な科学レポートを全員が作成します。

2年生の授業から



「木の魅力を伝えられる建築従事者になってほしい」と、林業家の井上淳治さん。

今年、林業研修は6月22日に
おこなわれました。
前日は大雨でしたが、当日は快晴に恵まれました。
林業家の井上淳治さんの指導によるスギの苗木の周囲の草刈り体験の後、山林を歩きながら、生物資源である

木の多様性、魅力を聞きました(上写真)。この授業には、木造住宅建築の担い手として、木の魅力を都市住民に知ってもらうにはどうしたら良いか、豊富な森林資源をこれからの仕事にどう生かしたらいいか、考えさせる狙いがあります。

第27期生 卒業制作作品展示中 東京土建世田谷支部会館

本校の母体、東京土建一般労働組合の世田谷支部会館で、担当の先生から近年まれにみる秀作とほめられた第27期生 卒業制作作品を展示中です(9月下旬まで)。同支部では会館を訪れる組合員にカレッジ教育の魅力をアピールして、来期入学生獲得につなげる考え。

右写真は、屋根瓦など細部まで木の造作で表現した「吹籠(とうろう)」。仲間と力を合わせて高度なものづくりを実現しました。ご注目ください。

